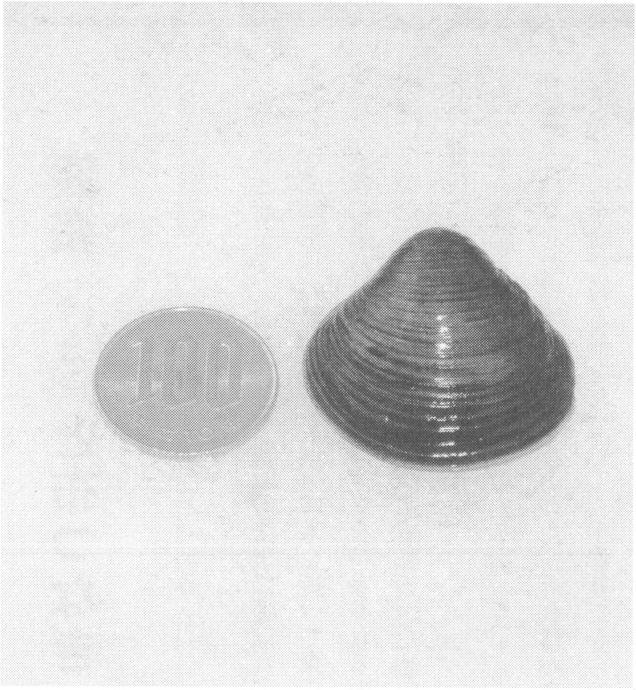


妙の光（たえのひかり）

通刊62号 **復刊41号**
2003年3月16日（季刊）
角田山妙光寺 発行
新潟県西蒲原郡巻町
角田浜 〒953-0011
TEL 0256-77-2025

シジミ貝

山門の前を流れる小さな沢には昔から沢蟹、山椒魚、カワニナが住み、今は見られなくなったがドジョウも沢山いて食卓に並んだ記憶もある。でもシジミはいなかった。

ところが昨年の暮れ、溜まった落ち葉をさらおうとして、川底の大きな貝が目に入った。まさかと思いつつ集めて味噌汁にしたらこれがまた美味。旬は春だが寒シジミも好まれるとか。

後日、檀徒のHさんが「俺が数年前に田んぼから、カワニナとタニシと一緒に稚貝を採ってきて放流したんだ。タニシ以外は繁殖することが証明されたね。もう少し様子を見たいから採らないで」とのこと。最近は川蟹も海から昇ってくるようになったし、これからもこういう自然環境を大切にしたいので、ご協力ください。

袈裟（けさ）と布つなぎ

小川英爾

ちょっと前まで、お寺参りや親戚の法事に呼ばれて行くときには皆さん米を持参したものだった。いまでも寺では正月の年始参りや行事に米を持って来られる農家の人もまだ多いし、〝告げ〟といって、葬式を依頼に来るときも米とロウソクを持参される習慣は残っている。しかし社会が何ごとにつけても現金になったことと米の値段が下がってしまったせいか、こうした米を持参する風習は消えかかっていて若い世代には通じないかもしれない。

この米を持参するとき最近はスーパーのビニール袋を使うことが多いが、以前は〝米袋〟と呼んで各家で手作りした専用の布の袋があった。それはバラバラな布の端切れを縫い合わせて、きんちゃく袋のように口を紐で縛る形をしていて、手作りだからひとつひとつ全部柄が違った。幼い子供の着物を縫った端切れなのか赤や青い布地を組み合わせた鮮やかな物、女性の着物生地の端切れか上品に落ち着いた柄や、中には金糸銀糸が使われた高貴な雰囲気のする物。さらに凝った物は口紐を通す輪のところも色を変えたりしたものまであった。あくまで中身は米なのだが。

なんでもすべてお店で売っている現代の品物と違い、はるかに個性的で見ても楽しかった。こうした細工をすることで作る人は個性を発揮して楽しんだのだろうし、何よりも端切れを無駄にしない知恵が

すごいことだと思う。最近はスーパーのビニール袋使用を減らして、持参の買い物袋や風呂敷を見直そうという声も耳にはするが、まだまだ見かけることは少ない。こんな買い物袋を使ったら楽しく資源保護ができると思うのだが。

実は坊さんが着用する袈裟も、同じように端切れを集めて作るのが本来の姿だった。細長い布を縦に縫い合わせて横長の形にしたもので、その作り方は今も変わっていない。そもそも袈裟はインドでカーシャと言って濁った色のことをいい、猟師などが着ていたボロの布を仏教が取り入れたそうだ。いま日本の坊さんの質素な法衣は、墨染めの衣に木欄（もくらん）色といって茶色の袈裟とされている。これが袈裟の原点の色なのだ。原点と言えば糞掃衣（ふんぞうえ）といって、糞や塵にまみれて捨てられたボロ布を洗って法衣を作るのがインドの当時の決まりだったという話もある。確かに今もインドでは乾燥して土が舞ってるから、貧しい人の衣服は土ぼこりに汚れた色をしている。坊さんは貧しい人も含めた多くの人から施された布を寄せ集めて、法衣としての袈裟を作るのが教えだったということだ。ちなみに〝お布施〟とは〝布を施す〟というこのことからきている。

ところがご承知のように、日本の坊さんの法衣の正装はすごく派手になっている。例えば葬式や法事で着用している私の衣は、高貴な色とされる紫色に染めた絹で、袈裟は緋色に染めた絹に金糸の刺繍まである。多くは京都の衣専門店が作るものでとても値段が高い。（言い訳ですが個人的にはいつも最低価格のものしか買ってません。先日、買って差し上げましょうかという方がおられましたが、ご遠慮してお寺の備品にしていただきました）これは中国を経て日本の長い歴史のなかでこんなことになったわけで、個人的にはとても恥ずかしく、いつか機会を見てもっと質素な法衣に変えて行きたいと思っている。

こうした端切れを寄せ集めて作る布つなぎのことをパッチワークといって、いま世界的なブームになっているそうだ。どこの国でも古い生地を生かして新しい物に再び蘇らせるという思いは一緒。日本では去年に続いて今年二月、野球で有名な東京ドーム球場でＮＨＫが主催して世界のパッチワーク展が開かれ、開期中二十万人を越すおもに女性が全国から集まったという。テレビでも随分紹介されたのでご覧になった方も多いと思う。

なかでも一番人気の高かったのが隣の韓国のものだそうで、常に人が集中し作り方を教えて欲しいと言う人が後を絶たなかった。私も以前ソウルで拝見したが、草木を原料にして淡い色で染めた麻や絹を細かく縫い合わせた大きな壁掛けや、暖簾のような間仕切り、小窓のカーテン、小さいものはテーブルクロス、すべてが手が込んでいて確かにすばらしかった。そして何よりも驚いたのは、坊さんの袈裟を作ることからヒントを得て、庶民が端切れを使って衣服にしたのが始まりだと聞いたことだった。

この韓国でポジャギと呼ぶ布つなぎやヌビと呼ぶ日本の刺し子を、ＮＨＫに頼まれて展覧会に出展する取りまとめ役をされたのが宋さんという方で私の古い知人だった。この宋さんから「これは妙光寺の古い建物にも新しい本堂にも似合うから、飾って皆さんにも見ていただいたらどうでしょう。誰にでもできることで、きっと習いたいという人も出るでしょうから講習会をしてもいい」との提案をいただいた。ただ今年の秋は横浜、来年春は奈良と予定が決まっているので、来年秋九月になるとのこと。

身近かに米袋があったり袈裟が始まりだったりする布つなぎを通して、韓国の文化に触れるのも楽しいことだし、半端物を大切にして蘇らせる知恵を学ぶことは私たちが忘れかけていることでもある。かなり先の話だが、是非にとお願いして楽しみにすることにした。間がありますがご期待ください。

信心

ずっと世話役

巻町舟戸　笹川治一（七十六歳）さん

「世話人を何年続けてきたか、思い出せない。たぶん昭和三十年過ぎだったけど。え、それではもう五十年近くなる？そんなになるかなー」とは、この春妙光寺世話人の定年制で引退される笹川さんの言葉。長年山本地区二十二軒の世話人をひとりで勤めてこられたが、二十年前に客殿建て替え工事が大変でこの地区からもうひとり選出して以来、ふたりで地区のとりまとめをおねがいしてきた。そのもうひとりの笹川さんも今回交代される。

この地区には大正時代から続く西山本講中という檀信徒の集まりがある。春秋の年二回当番の家に皆が寄り、住職を招いてお経の練習や、寺の話題等々親睦を深めている。講の仲間に不幸があれば、お通夜から野辺送り、昔は初七日まで追善のお参りを続けたものだった。この講中の代表も一時笹川さんが勤めたが、今は別の人に。

堅実で明るくこまめに世話のできる人柄が信頼されて、若い頃から青年団、消防団、農協、区長等々の役を任されてきた。現在は老人会の会長を勤める。「俺は役なんかできる人間じゃないよ」といいつつ、「そう言えばいろいろやらされてきたなあ」と。

父親が病弱で農家の仕事をせず材木屋をしたので、笹川さんが十六才から農業を任された。それでも人並みの田んぼがないから当時盛んだった林業で、馬車を引いて山から木を引き出したり製材された木材を遠くまで配達したりして生活を支えたという。林業が衰退してからは、農業の傍ら土木作業に従事してきた。

昭和五十七年、長年連れ添った奥さんに先立たれた。これを機に翌年初めて身延山参りをして、七面山にも登った。このときの記念にと自宅仏壇用に買い求めた大きな鐘が、毎日のお参りの際に音を響かせている。

以来数回お寺の団体参拝に参加したが、昨年は嫁いだ娘夫婦が喜寿のお祝いに、身延山参拝と長野の温泉二泊の旅に車で案内してくれた。

現在家族は長男夫婦と孫の五人。風が冷たいとタオルで頬かむりして、バイクで出かける元気な毎日を過ごしている。

寺の動き

基金運営、その他

人の立っている位置にケヤキ並木の予定

駐車場整備

これまでも広い駐車場ですが、それでも年何回かの大きな行事には車が溢れます。その度に白線を引きさらに誘導係をお願いして、より多く納まることと事故防止に努めてきました。このたび敷地を整備して最大限有効に使えるようにしました。

繁茂したしの竹の伐採、排水溝に管を敷設して整地、余分な土の撤去、余った石を境界に積んでの土留め作業等は大仕事。寺のスタッフに加えて巻町の本多さんが重機持ち込みで連日応援してくださり、ほとんど経費をかけずに完成しました。最後の地ならしは特殊な機械が必要ですが、これも角田浜の石田誠一さんの奉仕でできあがりました。

管理上は頻繁に使用するところだけでも舗装できればいいのですが、経費的に無理です。さらに一部借地の部分もあります。そこでロープで線引きをして駐車区画を分けます。また樹木がなくては夏に暑すぎますし、景観も考慮して一部にケヤキの並木を植栽します。

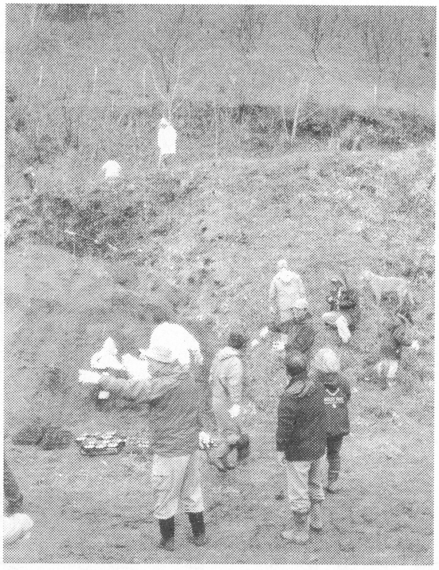
この植栽費用全額は、埼玉県の河野清治・智子夫妻が、昨年秋の授戒を受けられた記念にと奉納された寄付金を充てさせていただきます。高さ五メートルの成木八本ですから見事です。このお彼岸までには完成予定ですが、芽が吹いた姿は五月になります。楽しみにお出かけください。

境内周辺の里山整備

昔里山といって民家に近い山は、炭焼きや燃料にするため雑木を切り、下草は家畜の餌として刈られ、植林した林はい

つもきれいに人の手が加えられていました。でも生活様式の変化でいま山は荒れ放題です。

そこで官民挙げて緑の環境保全を目的にボランティアで里山をきれいにする運動が全国で展開され、妙光寺周辺の山でもその動きがあります。これまで「巻町親子劇場」という親子の演劇鑑賞団体が、杉林の下草刈りを三年続けました。昨年春からは「NPO法人渓流再生フォーラム」が引き継ぎ、里山の整備に汗を流しています。昨秋の作業には妙光寺檀信徒、安穏会員も参加されました。



雑木や山野草を植えるボランティアの人達

活動経費は財団法人やセブンイレブンやローソンといった民間企業が助成し、作業は退職されたような方々のボランティアですから、持ち主は自分の山が無償で整備され、喜んでいます。妙光寺は周辺にほとんど山を持ちませんので、きれいになった山を借景にして大助かりです。

この春は池の山側の土地でしの竹と藤ヅルを伐採し、クヌギ等の雑木と福寿草や雪割草の山野草を植えました。

『妙光寺安穏基金』について

一般に寺は戦前まで田んぼや畑といった農地や山林を持つ地主で、そこからあがる年貢米等の収入で主に寺を維持してきました。それが戦後の農地開放政策で農地は全て没収され、山林は残ったものの価値がないに等しいものになっていることはご承知のとおりです。当時は土地が一部の地主だけで所有され、小作と呼ばれる多くの人たちは貧しい生活でしたから、歴史の流れからみても必然的なことでした。

そこで宗門はお布施に頼りつつも基本的には「護持会」を結成して、檀信徒が平等に会費を負担して寺を維持するよう指導し、妙光寺もそうしてきました。

しかしそれだけでは檀信徒の負担が大き過ぎるので、先代住職の時代には保育園経営、学生の夏休み用宿泊研修所、ユースホステル等を副業にして妙光寺の運営を補ってきました。学生を泊めたときの食材、賄いの人手は檀信徒の協力によるものでした。

他の寺が駐車場や保育園、最近では葬儀会館等を経営するのも同じ理由です。宗教活動と結びつかないこうした事業には当然税金もかかります。それでも

人口密集地はいいのですが、田舎の寺は大変です。

寺に宿泊する学生もいなくなり、長い歴史と伝統、それに広い敷地と建物を守らなければならない妙光寺の運営をどうするか考えたとき、敷地の活用と世間から喜んで受け入れられる事業として安穏廟を決めました。その全ての収益を基金にした利子で、安穏廟の運営と妙光寺運営の補助をする計画でした。

これが順調に推移したことで計画以上に早く、現在一億八千万円の基金ができました。これは宗教活動ですから安穏廟の収益も非課税ですが、基金の利子収入までも宗教法人は非課税であることを後で知りました。

当初は利子も予想通りについて順調でしたが、ご承知のように低金利の昨今ではどうにもならない状況です。そこで専門家の意見を聞き、外国債券も含めてやや危険も伴うが利子の高いところ、利子は低いが安全なところと分散して現在は運用しています。

詳細は役員会議で報告、協議いただいています。概略は第四銀行、大和証券、メリルリンチ日本証券の三社に分散して、格付の高いところでオーストラリア国債、世界銀行債、低いところでは南アフリカ国債、マレーシア国債等を購入しています。外国債で円建てもあります。国内物ではＮＥＣ日本電気の優先証券等がありますが、こちらは格付も利子も低いのです。

十四年度は平均五％弱で八百五十万円程の利子収入があり、全額十五年度の会計に組み入れます。本堂、客殿の修繕積立金及び火災保険、安穏廟の管理供養経費、対社会布教活動経費等に充当し、いままで通り役員会で審議のうえ、全檀信徒への報告も今までどおりです。

日本を含め世界経済が混迷する昨今、基金運用を心配くださる声があります。また安穏廟の運営と檀信徒の負担を軽くするという目的を見失ってはいませんが、見方によっては金が金を生み出すマネーゲームにはまっているやに受けとめられかねない現状でもあります。この点を考慮し、現在受付中の「杜の安穏」の収益は原則として基金化せず、今後は土地の購入、人材育成等で基本財産化していく方針を決議しています。

本堂での法事が好評で増えています

・本堂で法事を営む場合は会場使用料は不要です。
・事前に申込まれれば、ロウソク、線香、お供えの花、墓参用の花、お供えの菓子、果物、霊供膳をセットにして一万円で用意します。その場合は故人の位牌（必要なら写真）だけお持ちください。各自で持ち込まれるのもご自由です。
・お斎は別会場へ移動されても、妙光寺客殿利用もできます。客殿使用料は一人五百円お願いします。
・仕出し料理、飲物の持ち込み自由です。料理屋の紹介もします。ご希望により飲物も若干の手数料でご用意します。
・葬式の場合は会場使用料三万円。冬期間は暖房費一万円加算です。交通不便が難点ですが、祭壇が不要ですので華美にならず安価にできます。
・皆さんのお寺です。せいぜいご利用ください。

『杜の安穏』ご案内

安穏廟が満杯で昨年夏に開設した『杜の安穏』も問い合わせ、申込が続いています。会員、檀信徒の皆さんの紹介で来られる方が圧倒的に多いのが特徴で、大変ありがたいことです。そこであらためて概要をご案内します。

安穏廟より小型ですが「より自然に近い中で小さな形でいい」との声を受けてデザインしました。土地の占有面積が広いうえ、植栽等環境整備にかかり、安穏廟と工事費は変わりませんでした。

現在1期目の80区画を受付中で、45区画が契約済み。最終的には240区画までの用意がありますが、これで完全に受付停止です。1件分の1区画に複数体の納骨が可能で、85万円。他に文字彫り経費3万円弱が必要です。

詳しい案内書がありますので、友達、親族等のために希望される方はお知らせください。郵送します。

中国天台山参拝、抗州、上海観光 団体旅行ご案内

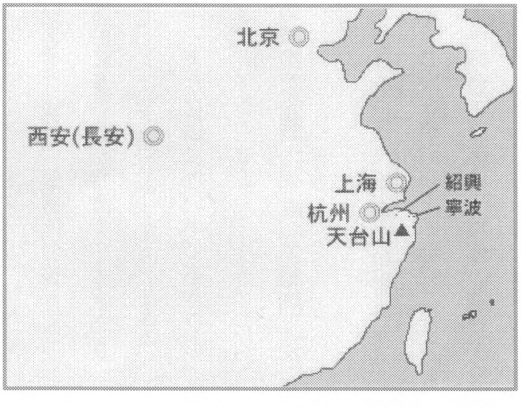
希望があり人数の目途がつきますので、２回目の中国団体旅行を企画しました。檀信徒、安穏会員、そのお友達等々どなたでもけっこうです。また新潟空港発着で、時間もゆとりがあるので新潟県外の方も集合、解散後が楽です。お誘い合せお申込ください。

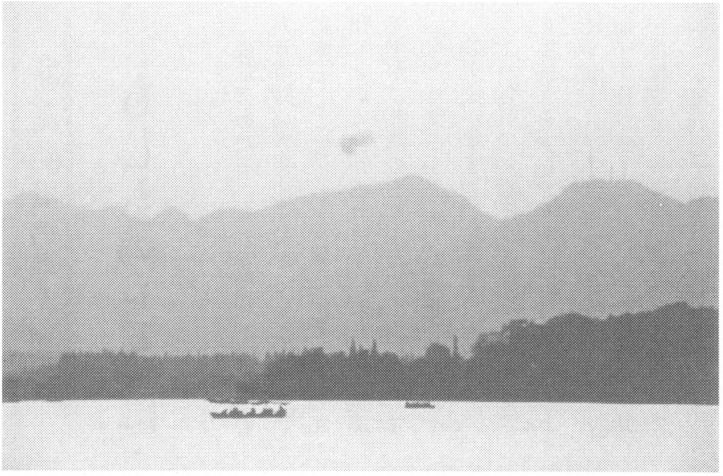
日蓮聖人が学ばれた天台宗は、遣唐使で渡った伝教大師最澄が中国の天台宗からもたらしました。中国でこの天台法華仏教を開いた天台大師が随の時代に開創し、最澄も留学したのが**天台山国清寺**です。この国清寺参拝と、中国で古くから景勝地として有名な**西湖**、古き良き水郷の町**烏鎮**、発展目覚ましい街**上海**等の観光を組み入れた旅です。

- **期　　日**　９月27日(土)～10月１日(水)　４泊５日
- **費　　用**　２人部屋使用　１人14万円概算
- **人　　員**　20名
- **主　　催**　**妙光寺（中国西安国際旅行社が担当します）**
- **日　　程**　（行程は変更の可能性があります）

１日目	新潟空港16:15→上海空港18:20→抗州（泊）
２〃	天台山参拝（泊）
３〃	抗州、西湖、浄老寺観光（抗州泊）
４〃	烏鎮、上海市内観光（上海泊）
５〃	上海空港11:40→新潟空港15:23　解散

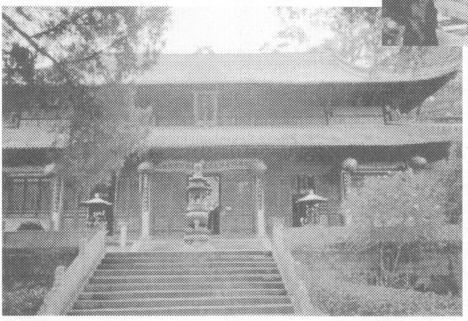
※　１人部屋使用は割増しになります　　※　海鮮料理、点心料理を含みます
※　ホテルは５星クラスを使用します　　※　中国国内での移動は専用バスです



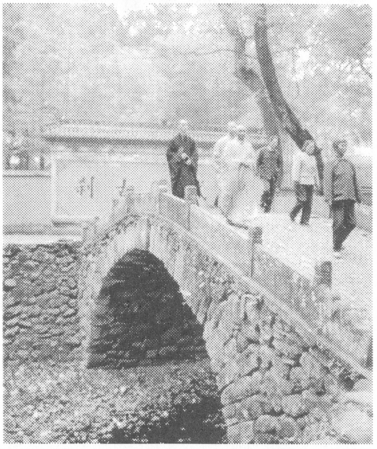


夕暮れの西湖（浙江省杭州）から蘇堤を望む。

日蓮宗が建てたお題目宝塔



本　　堂



豊千橋を渡る参拝の信徒

あんのんのページ

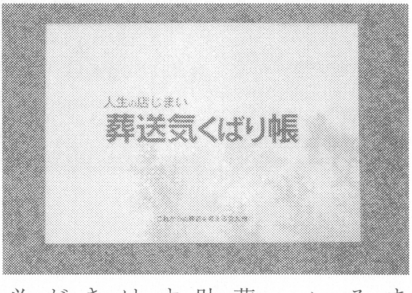
もしものときに・・・・

後輩にあたる「大分安穏廟」を主宰の大分市妙瑞寺菊池住職が中心になって活動する、「これからの葬送を考える会九州」という会があります。お墓は安穏廟ですが、葬儀のありかた、人生の店じまいをどうするかといった問題を、会員や一般市民が集まって語り合っています。

この会が、人の死からはじまるさまざま手続きを少しでも円滑に行なえることを目的にした『葬送気くばり帳』という冊子を作りました。これが地元新聞に紹介されるや、一週間で千件を越す問い合わせが殺到して新聞社の電話がパンク。これまで大分県内を中心に三千六百件の申込だそうです。（届出の行政機関は大分県が紹介されてますが、参考に欲しいという方は葉書で〒870-1141大分市下宗方901妙瑞寺。代金500円は郵便振替用紙が同封されて届きますから後日に）

いま類似のものは書店にも結構ありますが、身近な形にした点が喜ばれたようです。妙光寺でも希望者が多く、協力いただける方があれば新潟県判を作ってもいいと思います。

今もしものときどうしたらいいか、ということに多くの方が心配する時代です。それには事前の準備が必要です。財産に関しては法律家、社会保険は社会保険労務士等々専門家も必要になりますから、元気なときでないとできません。子供や親族がいるから安心、ではなくて、そのためにこそ必要です。これらを一切請け負う業者も出始めていますが、まだまだ信頼できる状況ではないようです。



妙光寺では葬儀に関して助言していますが、突然ではお手伝いできかねる場合が多いので、必ず事前にご相談ください。その他に関しては弁護士、公証人等専門家をご紹介しています。最近は会員の高齢化で相談される方も増え、皆さんに喜んでいただいてます。お気軽にどうぞ。

今年のフェスティバル安穏は八月二十三日の予定で、詳細はこれから相談します。計画に入れてください。

『杜の安穏』は百区画中四十五の申込状況です。あずま屋周囲の桜を植え替えましたので、四月中下旬が見頃です。

中国旅行、ご参加いかがですか。

寺庭から

詩をよむ

小川　なぎさ

私の好きな詩に茨木のり子という詩人の書いたこんな詩があります。

「倚りかからず」
じぶんの耳目
じぶんの二本足のみで立っていて
なに不都合なことやある
よりかかるとすれば
それは
椅子の背もたれだけ

大人になっていろいろな経験をつんでくると、たいていのことには平気な顔を出来るようになりました。
つらくても笑っていられたり、悲しくても涙をこぼすというようなことも少なくなりました。

年頃の娘たちは毎日小刻みに怒ったり笑ったりしょんぼりしたり、本当によく疲れないものだと関心しますが、そのまっすぐな感情の変化を見ていると、どんな自分でも受けとめてくれる親や兄弟がいるからだという安心感があるからではないかと思うのです。

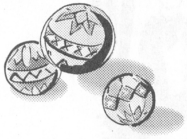
私自身は昔から人に頼ったり、甘えるのがとても下手くそでした。そういう性格なので、今でも力仕事や電気の修理など女性が苦手なことでもたいていのことは一人でやってしまいます。娘たちが言うには、（強いおばさん）（恐るべきオカン…母のこと）なのだそうです。

でも、おばさんだって淋しくなったり心細くなったりするのです。

そんな時この詩は私を本当に勇気づけてくれました。またもう一編「笑う能力」という詩から。

よろしい
お前にはまだ笑う能力が残っている
乏しい能力のひとつとして
いまわのきわまで保つように
はイ　出来ますれば
山笑う
という日本語もいい
春の微笑を通りすぎ
山よ　新緑どよもして
大いに笑え！

もうすぐ桜の季節です。裏山も笑うことでしょう。寒さから心も体も抜けだし、良い季節を迎えましょう。



行事案内

春彼岸会中日法要

三月二十一日（祭日）

午前十時半―安穏廟法要　十一時―彼岸会法要（本堂）　十二時―お斎

午後一時―お説教（住職）

・どなたでもこぞってお参りください。お斎も当日受付で申し込んでください。

ご判様お開帳大会（だいえ）

日蓮聖人ゆかりのご判をお開帳する三百年以上続く伝統行事です。満開の八重桜の下を、輿（こし）の行列がお練りします。ご参拝ください。

四月二十九日（みどりの日）

午前八時半―受付開始　九時―説教開始　十時半―山門法要、お練り

十時半―稚児音楽大法要　十一半―法楽加持

昼十二時―お斎　十二時半―お開帳　一時半―施餓鬼音楽大法要

・檀信徒宅の皆さんには事前に志納金と施餓鬼塔婆、祈願の申込袋を配布します。祈願は午前の大法要で、塔婆は午後の施餓鬼法要で読み上げします。お申込ください。

・出仕の稚児を募集しています。三歳くらいから小学校一年生くらいまで男女計十名。白足袋と五千円（衣装、写真、記念品、昼食）が必要です。昼食後解散。子供が少なくて毎年定員割れしています。外孫でもどなたでもけっこうです。

・今年の当番は山本組です。また角田地区には事前の幟立てと当日の輿担ぎをそれぞれよろしくお願いします。

あとがき

予報に反して寒かった今年の冬も去り、待ちかねた春の訪れです。私事ですが、この冬激しい痛みを覚え受診した病院で勧められて痔を手術しました。最新療法とかで、麻酔を効かせレーザーでやるんです。なるほど手術はすぐに済みましたが、私のは重症とかで術後一カ月近く悩まされました。冬場の暇な季節なのが幸いで、こたつでゆっくり本が読めたのはなによりでした。でも予定の仕事が遅れて、いま気ぜわしい毎日です。

私事ついでに、長女がこのたび新潟大学に合格してくれました。あとに三人娘が二年続くので、お寺から通える国立大学で、奨学金も決まりホッとしています。

（小川）